



# はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第 9 号

令和 6 年 1 2 月 2 日 文責：校長 村井 宏之

## 考える 東っ子!



本校は、長崎県教育委員会と時津町教育委員会の指定を受けて国語科の研究に取り組んでいます。十一月十五日(金)に開催した研究発表会には、長崎県内外から約百四十名の先生方の参加がありました。当日は、二年三組、

四年二組、六年三組が代表して国語科の授業を公開しました。本校の国語科の授業は、自ら「問い」をもち、「個」と「集団」でその解決を目指すものです。一人一人が自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して問いを解決し、それと共に必要な力を身に付けていくことを目指しています。三学級とも、普段通り、生き生きと話し合い、自分たちで学びを深めていく姿を見せてくれました。参観いただいた先生方から子供たちの学ぶ姿を称賛するお声をたくさんいただきました。

二年生の子供たちが「考えたい」「話したい」と意欲的に活動している姿が印象的で、学びに向かう姿勢ができてきているなど思いました。

四年生の子供たちが国語科における大切な用語を当たり前のように使っていて驚きました。

六年生の子供たちは自信をもって自分の考えを伝え、相手の考えを受け入れながら、さらに自分の考えを見直したり、広げたりすることができていました。

子供たちの輝く姿、一つの目標に向かって一致団結して学ぶ姿に感動しました。子供たちが意欲的で、本文を根拠にしなから取り組む姿に感動しました。

子供たちが前のめりになって授業に参加する姿がすばらしかったです。これは、自分たちが立てた問いを「解決したい、考えたい、深めたい」という思いが強いからだと思えました。

この研究発表会では三つの学級が授業を公開しましたが、全ての学級で同じ考えのもと国語科の授業を行っています。間違いなく、考えをもち、友達と話し合いながら学びを深めようとする風土が東小にはできています。これからの、東っ子のさらなる成長が楽しみです。

## はきもの並べ 全校はなまる



今年度は全校で「あいさつ」に加えて「はきもの並べ」に取り組んでいます。給食時の校内放送では、「あいさつ花丸さん」に加えて、下足箱の靴が揃っている学級を「はなまる学級」として紹介しています。ほとんどの学級が並ぶようになった

のですが、やはり何足か揃っていない靴があるという状況が続いていました。しかし、十一月一日ついに、全員の靴が揃い、全ての学級が「はなまる学級」になりました。すごい！五百足を超える子供たちのくつが揃ったのです。最近、この取組に伴い、トイレのスリッパも並ぶようになってきており意識の高まりを感じています。この機会に「ご家庭でも「はきもの並べ」への取組をお願いします。

十一月二十九日 二回目を達成しました!

## 地域見守り隊「防犯功労団体賞」受賞!



本校の「地域見守り隊」の長年の功績が認められ、八月の時津警察署からの感謝状に続いて、長崎県警察本部から「防犯功労団体賞」を受賞されました。二十年以上にわたって東っ子の安全を毎日見守ってくださっている「地域見守り隊」の皆様の活動が認められたことをうれしく思います。これからもよろしくお願ひします。

## 学校へ行こう!

明日から授業参観・学級懇談会です。今回は多くの学年で学年レクリエーションが企画されているようです。ぜひ、授業参観、学年レクだけでなく懇談会まで参加ください。担任、そして保護者様同士で情報を交換し、横のつながりを深めていきましょう。

特別支援教育だより

# めばえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和6年12月2日  
時津町立時津東小学校  
特別支援教育コーディネーター  
文責 若杉 聡  
第6号

## 自尊心



「自尊心」とは、「自分は価値ある存在だと思う」ことですが、子ども達が社会に順応する上で、欠かせないものと言われています。自尊心は、自分の存在を肯定的にとらえる「自己肯定感」と、自分は周りの役に立っていると思う「自己有能感」によって育てられると言われています。（「発達障害とその周辺の子ども達」尾崎洋一郎著より）

私たち大人は、いつでも元気で、はつらつとしていて、明るい気分で日々を過ごしているでしょうか。元気が出ない、やる気が出ない、暗い気持ちの時もあると思います。ではそういった時、仕事や家事を避けているでしょうか。もちろんどうしてもきつい時は病院に行ったり、休んだりすると思いますが（休むにしてもショッピングや映画に行くなど好きなことはしないでしよう）、その前に状況や環境と自分に何とか折り合いをつけ、がんばっていることと思います。



令和6年10月に文科省からある報告書が出されました。報告書によると全国の小中学校の不登校とされた数（年間30日以上「病気」「経済的理由」の理由以外で欠席）が34万人を超えたとのことで、前年度より約4万人増加だそうです。また欠席した児童生徒について、**32%が学校生活にやる気が出ない等の相談があり、23%が不安・抑うつ**の相談があり、**23%に生活リズムの不調に関する相談があった**とのことでした（以下15.2%に学力不振・頻繁な宿題未提出が見られ、13.3%にいじめ等友達関係をめぐる相談有り）。

個人的な見解ですがこういった現状は、相談されていた内容から、前述の「自己肯定感」「自己有能感」「自尊心」を育てることが改善への一つの方法になるのでは考えます。学校に登校することで、多くの時間は教科の学習に取り組めますが、それ以外にも友達とのコミュニケーション、遊び、係や当番などのみんなのための仕事と、できる経験は多くあります。その中に「やりがい・やる気になるもの」を見つけ、登校意欲に繋げるために「自己肯定感」、「自己有能感」そして「自尊心」は大切ではないでしょうか。文科省は「学校に行くこと」自体が目的ではないが、「学習に取り組んでいく」ことは必要と言っています。「どのような場面でも」「どのような課題でも」「自分なりに取り組んでいく（≠良い結果を出す）」子ども達であってほしいと願っています。

では具体的にどのように子どもに関わっていくことが望まれるのか、次回考えていきたいと思っています。

